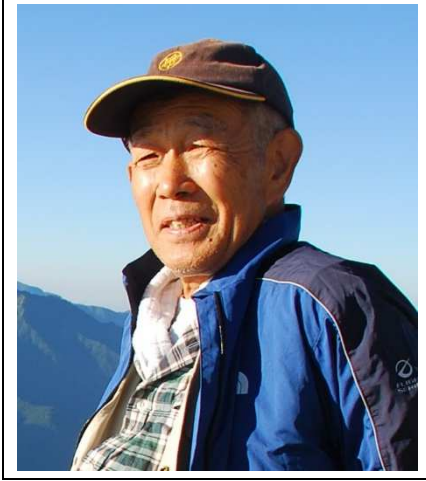


平井一正先生を偲んで

JAC 会報原稿

井上達男



神戸大山岳部に入部早々先生の研究室を訪ねたのは1966年のことだった。先輩からチョゴリザに初登頂されたすごい先生がおられるから挨拶に行け、と言われたのだった。小柄の先生が厳しい表情で迎えてくれた。緊張して「山岳部に入った新人です」と挨拶したら途端ににこやかになられ親しく歓談していただいた。以来54年間ご指導と親交をいただいた。

先生の生涯5度にわたる海外遠征はすべて未知、未踏への挑戦であった。初めてのリスクは極めて大きい達成の喜びは計り知れない。また、すべての遠征で犠牲者を一人も出さずに成功されている。ご本人は幸運の女神に恵まれたのだと。先生はその経験を我々後進にも存分に体験させてくれた。

先生からは「未知の谷は下るな」「登山記録は必ず残せ」「目標を定めたら実現に努力を惜しむな」「近郊の山でも装備に手抜きはならない」「人との出会いは大切にせよ」など山登りとそれ以外にも人としての生き方も数多く教わった。

1986年初登頂したクーラカンリ隊には中国地質大学(武漢)の学生が協力員として参加した。その何人かが中国登山協会の幹部となった。中でも李致新氏は現在登山協会のトップとして活躍している。1988年のチェルー山は神戸大学と中国地質大学の学生が合同で初登頂した。その後ロプチン峰もタリ峰も中国地質大学との合同で成功している。合同登山は異文化の対峙で共同が難しいが、苦勞して築いた友好は日中の相互理解に貢献できる。と、先生は信念をもって関係継続をリードしてくれた。

2006年神戸大山岳会長を勇退される時、「後を引き受けよ。拒否権なしだ。やってきた未知への挑戦を継承するのは君の責務だ。」と説得された。ヒマラヤの初登頂時代と違い登山は多様化し、未踏峰はなくなったと言われる昨今、課題は難しくなった。『キノコは千人の股をくぐる』学問のテーマ探しの教訓だ。西堀栄三郎先生から教えられたことを伝授していただいた。早速勉強に手を付けると未踏の山々、ニイチェンタングラやカンリガルポ山群が見つかった。しかもカンリガルポは6000m峰が、先生が挑戦されたルオニイ峰を筆頭に40座以上あり、すべてが未踏峰だった。1976年、先生が隊長だったシェルピカンリの初登頂に満足していた私に「太った羊になるより飢えた狼であれ」と叱咤激励された。

2009年カンリガルポのロプチン峰初登頂、2015年ニイチェンタングラのタリ峰初登頂は先生晩年のご指導の賜物だ。もちろん無事故であった。

2011年8月、もうすぐ80歳の先生から「黒部の赤牛に登りたい。一緒に行ってくれるか」と電話があった。2010年9月には先生が登り残していた塩見岳に同行した。今回を最後の大きな山行にしたいとのことだった。太郎平から雲ノ平を経て水晶岳を越え赤牛岳に至り、黒部湖に下山する3泊4日の旅だった。私一人では有事に対応ができないと考え頼りになる仲間二人に参加してもらった。先生はゆっくりとした歩きだったが気丈に山を楽しまれた。奥黒部ヒュッテから黒四ダムまで、アップダウンが延々と続く道はきつかったことと思われる。

平井一正(ひらいかずまさ) 略歴

JAC 会員番号 4639

1931年10月31日 岐阜県生まれ

1950年 京都大学山岳部入部

1958年 京大チョゴリザ遠征初登頂

1962年 京大サルトロカンリ遠征隊員

1964年 京大から神戸大に赴任

1965年 神戸大山岳部副部長就任

1972年 システム工学科教授昇任

1976年 シェルピカンリ遠征隊長

1986年～1995年 神戸大山岳部部長

1986年 クーラカンリ遠征総隊長

1997年～2006年 神戸大山岳会長

1988年 チェルー山名誉隊長

2003年 ルオニイ峰遠征隊長

2010年 瑞宝中綬章 授与

2021年2月15日 逝去 享年89歳